

店頭から
「こんにちは」

第83回

市民検診で精密検査へと…

自分の身を守るために受けること



毎年受けている市民検診。

今年は思わぬ方向へと展開していきましたが――。

はがきではなく封書が

血液検査は以前、悪玉コレステロールが少し高めでした。ただ、ジムへ通い始めて2年で、すべて異常なしに。

5年ごとの検査のPSA値も、正常。眼底検査では、動脈硬化の兆候もなく正常でした。

2年ごとに受ける大腸内視鏡検査では、予想どおりポリープがあり切除を。前回切除したあたりも、キレイに修復されているとのこと。

ホッとしていたら、胸部X線写真の結果が届きました。

いつも、はがき1枚なのに、今回は封書。この時点で中味は想像でき、案の定、精密検査は2週間後とのことで、いろいろなことが頭の中を駆け巡りました。

冷静に、検査前の体調を思い出そうとしたものです。「そうだ、検査をしたころ、全国的にハシカが大流行していたな」と。

私は、子どものころ、ハシカにかかったことがないと、母から聴かされていました。大人になって

からハシカにかかると、症状がヒドクなるともいいます。

幸い、発疹は出ずじまい、ハシカではありませんでした。そうしたあれこれがあったことを忘れ、胸部の検査を受けていたのですね。

影の正体は…

さて、再検査ですが、問診されてすぐに、CT検査を。数分で終了後、医師の説明を聴くため、診察室に入ると、市民検診時のX線写真と、つい先ほど撮影したCT検査の写真が用意されていました。

医師は、X線写真を見ながら、「この部分に、ボンヤリと影が写っているので、精密検査に廻されたんですね」と。

そして、次のように。

「ここに血管が2本あるのですが、それが重なり合い、影ができたようです。見る角度によって、モヤモヤと大きく見えることも。だから、異常はありません」

翌日のことです。学校医と学校薬剤師との合同研修会で、異常なしという結果について、お話をすると、ちょうど呼吸器専門の医

師がいらっしまったのです。

まず、どこで精密検査を受けたのか、肺のどのあたりか、上部か下部か内側か外側か、どのような形の影が写っていたのか等、聴かれました。詳しくお話しすると、「それなら大丈夫」と、ひと言。

「本当に大丈夫ですか」と聴き直したら、黙って笑っておられました。うまい具合いにセカンドオピニオンのお話が聴けたのです。

「検査ばかりやって、自分で病気を作らないでください」

そうした、お見舞いの言葉のような、そうでないような言葉を友人が。とはいえ、このような基礎検診は、自分の身を守るためには欠かせないものだと思います。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「今後、感染症には注意をしてください」

